

2016 年度理研よこはまサイエンスカフェ【出張版】開催報告

理研横浜の魅力と研究内容を地域の若い方に伝えるため、浅野高等学校、法政大学女子高等学校において、理研よこはまサイエンスカフェを開催しました。

○ 浅野高等学校

日時：2016年12月16日（金）13:00 - 15:30

参加者：高校1年生28名

講演タイトル：「生命分子を人工的に創る・活かすケミカルバイオロジー！
～最先端研究の現場からのメッセージ～」

講師：理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター

構造・合成生物学部門生命分子制御研究グループ

非天然型アミノ酸技術研究チーム

和田 章 専任研究員



和田研究員が、世界トップレベルの理化学研究所ならではの研究環境や、切磋琢磨する研究者らの様子を紹介すると共に、学生時代、何に興味を持ち、何を目指して研究者になったのか、「現在と未来のサイエンティスト」とは何か？について、将来を意識し始めた浅野高等学校1年生の生徒に向けて講演を行いました。

講演後の座談会では、和田研究員が客員准教授を務める横浜市立大学の大学院生も加わり、生徒と活発な意見交換が行われました。

浅野高校の生徒たちの科学に対する興味、知識、そして将来に対する姿勢や夢の高さに、講師、そして私達理研スタッフも驚かされたカフェとなりました。



将来世界に羽ばたく若者へ、和田研究員の熱くそして暖かいメッセージが伝わったのではないのでしょうか？

○法政大学女子高等学校

日時：2017年1月16日（木） 10:55 - 12:45

参加者：高校2年生 23名

講演タイトル：「細胞をつくる、とどめる。- 静かなる植物の精緻な営み -」

講師：理化学研究所環境資源科学研究センター 細胞機能研究チーム

池内 桃子 基礎科学特別研究員



池内研究員は、最新の研究によって細胞を「そのままに留めておく」仕組みを突き止めることに成功しました。その仕組みがうまく働かなくなると、根の表面に生えた毛の細胞からなんと胚ができてしまったのです。その研究の紹介、

そして自身のキャリアパスなどをユーモアを交えて生徒に紹介しました。実際に顕微鏡で植物を観察しながら、細胞の美しさ、そして生命現象を解き明かす謎解きの醍醐味について、理系志望の高校2年生の生徒に講演しました。



座談会では、理研スタッフも加わり、植物の話に止まらず、今後のキャリアや、研究所の仕組み、仕事のことなど生徒と語り合いました。和やかな雰囲気の中生徒との交流は私達理研スタッフにとっても大きな刺激になりました。



*講師が研究で使用している顕微で植物を見てみました。